

江ノ口社会福祉協議会

創立60周年記念誌



平成23年12月4日

江ノ口社会福祉協議会

記念式典 式次第

1. 開 式 の 辞
2. 黙 禱
3. 会 長 挨 拶
4. 感 謝 状 授 与
5. 来 賓 祝 辞
6. 謝 辞
7. 記 念 講 演
8. 閉 式 の 辞

記念講演

演 題 「日本一の健康長寿県構想について」

講 師 高知県知事 尾 崎 正 直 様

感謝状贈呈

四 国 銀 行 よさこい咲都支店 殿

高 知 銀 行 北 支 店 殿

高知信用金庫 江ノ口支店 殿

功 勞 者 芳 名

上 地 清 殿

福 留 一 男 殿 井 上 智 子 殿

岡 村 康 良 殿 井 上 郁 子 殿 森 千代範 殿

濱 川 良 子 殿 松 田 誠 祐 殿

小 倉 卓 殿 岡 林 秀 子 殿 賀 田 義 幸 殿

澁 谷 三 鶴 殿 西 岡 百 合 子 殿 嶋 本 あけみ 殿

記念祝賀会

目 次

ごあいさつ	江ノ口社会福祉協議会 会長	高橋 尚良	1
祝辞	高知県知事	尾崎 正直	2
祝辞	高知市長	岡崎 誠也	3
創立60周年を祝して	高知市社会福祉協議会 会長	吉岡 諄一	4
螢がり	江ノ口社会福祉協議会 顧問	和田 寿美男	5
2002～2010会長	顧問	上地 清	6
創立60周年の思い出	相談役	西岡 百合子	7
私の遍歴時代（タイトル盗用）	総務部部长	小倉 卓	8
梶原の歴史と現在	交通防犯部部长	中越 利夫	9
創立60周年と東北・関東大震災の襲来に思うこと	青少年部部长	村岡 真佐子	10
小学生ふれあいの会をふりかえって	前青少年部部长	賀田 義幸	11
ご縁で不思議	青少年部理事	澁谷 三鶴	12
期待される社会厚生部の活動を	社会厚生部部长	高階 進	13
～つながりの糸を紡ぐ～	敬老部部长	邑田 康恵	14
生命をつなぎいのち紡いで	女性部部长	齋藤 民	15
東北の祈りを教訓にして	女性部副部长	岡林 秀子	16
青少年部と会計	会計理事	濱川 良子	17
大切な“自然や日常の生活”	監事	松田 誠祐	18
飽食時代の健康危機	監事	森 千代範	19
江ノ口社協創立60周年に思う	副会長	福留 一男	20
創立60周年によせて	副会長	岡村 康良	21
光陰矢の如し	副会長	井上 智子	22
創立60周年を祝して	副会長	井上 郁子	23
子どもを見守り育てる活動に感謝	愛宕中学校 校長	谷 智子	24
60周年によせて	一ツ橋小学校 校長	副田 謙二	25
創立60周年に寄せて	江ノ口小学校 校長	片岡 正樹	26
創立60周年おめでとうございます	あたご幼稚園 園長	野村 貞夫	27
創立60周年を祝して	江ノ口保育園 園長	刈谷 みどり	28
継続は力なり	あたご幼稚園	川田 珣子	29
江ノ口社会福祉協議会の60年間の歩み			30
社会福祉協議会歴代会長、副会長と主な出来事			32
平成23・24年度 江ノ口社会福祉協議会役員名簿			33
創立60周年記念事業寄付者芳名			37



ごあいさつ

江ノ口社会福祉協議会
会長 高橋 尚 良

江ノ口社会福祉協議会創立60周年記念事業を行うにあたり、ご挨拶申し上げます。

この度、高知県知事様、高知市長様、高知市社会福祉協議会会長様、江ノ口地区民生児童委員の皆様、江ノ口地区町内会連合会の皆様、愛宕中学校・江ノ口小学校・江ノ口保育園・あたご幼稚園の皆様、四国銀行、高知銀行、高知信用金庫の皆様、そして地域の多くの方々にご臨席を頂きまして江ノ口社会福祉協議会の創立60周年記念式典を開くことが出来ました。還暦(60年)に大輪の華が咲きました。地域の皆様とともに元気で慶びを分かち合うことが出来ることを何よりも嬉しく存じます。

60年の昔を思い起こせば、私事でございますが、戦後の焼け野が原、疎開先では大水害にあい、転居した所では南海大地震に会い、命からがら愛宕に帰ることができました。昭和24年に都市計画が始まり、復興が始まり、街路道は元の道より広くなりましたが、砂利道に並ぶバラック建ての杉皮ブキの屋根の時代(昭和26年)に、江ノ口社会福祉協議会が設立されました。

戦後の食糧難の時代、その日暮しの生活困窮者への衣・食・住の援護など、すばやい行動に立ち上がりました。江ノ口社会福祉協議会は、初代の山本義孝先生から歴代の会長の下で、社会福祉活動の原点に立ち、地域の人たちに愛の手を差し伸べ、健康で文化的な生活ができるように尽力してまいりました。

この60年、社会情勢は復興期から高度成長期、バブル崩壊の時期、現在の不況期にと、日本も世界もめまぐるしく変化しました。

諸先輩の教え・行動をもう一度振り返り、社会福祉の活動を和の心で、権利を主張する前に義務を遂行し、人に優しい安全で安心して暮らせる地域になるように創意工夫をしながら、江ノ口社会福祉協議会が楽しく活動できる協議会に発展するように努力することをお誓いいたします。これからは新たな暦の出発点となります。これまで同様にご指導、ご鞭撻の程よろしく願いいたします。

平成23年3月11日、東北関東大震災に遭われた地域の皆さまに哀悼の意を表しますとともに、亡くなられた方々に心からご冥福をお祈りいたします。一日も早く元の生活に戻れることをお祈りいたします。

〈天災は忘れた頃に来る〉 寺田寅彦博士



祝 辞

高知県知事 尾崎 正直

江ノ口社会福祉協議会が創立60周年を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。江ノ口社会福祉協議会は、第二次大戦後の復興途上の混乱期でありました昭和26年に、地区住民の福祉増進を目的として設立され、以来60年にわたり地区住民の皆様の期待や要望に応える活躍を続けてこられました。これはひとえに会員の皆様をはじめ関係者各位のご努力によるものであり、改めて敬意と感謝の意を表します。

本県では、県民の皆様が健やかで心豊かに、支え合いながら生き生きと暮らしていけるよう、「日本一の健康長寿県構想」を平成22年2月に策定し、健康づくりや医療環境の整備とともに、ともに支え合いながら生き生きと暮らす「高知型福祉」の実現を目指した取組を進めています。

誰もが安全で安心して暮らしていける地域をつくっていくためには、官民協働による新たな支え合いの仕組みを構築していくことが重要であります。

このため、人口の減少や高齢化の進展に伴って弱まりつつある地域の支え合いの再構築に取り組むとともに、地域で支援が必要な人などを早期に発見し、支援する体制づくりなどを進めます。さらに、福祉を支える担い手の育成や、利用者の視点に立った福祉サービスの質の向上に取り組み、安全・安心の基盤づくりを推進してまいります。

誰もが住み慣れた地域で、ともに支え合いながらいきいきと暮らせる「高知型福祉」の実現のため、社会福祉協議会等の関係者の皆様や住民の皆様には、これまで以上にご協力いただきますよう、心からお願い申し上げます。

地域福祉の推進につきましては、県と市町村、社会福祉協議会、県民の皆様が官民協働で取り組むことが非常に重要になってまいります。60年にわたって地区住民の皆様とともに様々な地域活動に取り組んでこられた江ノ口社会福祉協議会の皆様には、今後も、地域福祉の推進役を果たしていただくことをご期待申し上げます。

最後に、江ノ口社会福祉協議会のますますのご発展と、会員の皆様のご健勝、ご活躍を心からお祈り申し上げまして、お祝いの挨拶といたします。



祝 辞

高知市長 岡 崎 誠 也

江ノ口地区社会福祉協議会の創立六十周年を心からお慶び申し上げます。

江ノ口地区社会福祉協議会が設立されました昭和26年は、戦後の混乱期であり、高知市は戦災や南海大地震の痛手から、社会的にも経済的にも大変厳しい状況に置かれておりました。

そのような状況の中、山本義孝会長をはじめとする先人の皆様方の地域福祉に対する並々ならぬ熱意とご尽力によりまして、本協議会は設立されました。

以来、半世紀以上もの間、地域や住民の福祉向上のために、歴代の会長をはじめ、役員・会員の皆様方から弛むことのないご尽力を賜っており、その熱意とご功績に対しまして、心から感謝と敬意を表する次第です。

この間には、皆様方のご協力のもと、平成8年度から施行されておりました高知駅周辺土地区画整理事業も完了し、高知駅は新たな高知市のシンボルとして平成20年に新装開業いたしました。この区画整理事業により地域の町並みは大きく様相を変え、装いも新たな江ノ口地区としてさらなる発展を遂げられることと確信しています。

さて、去る3月11日の東日本大震災では、1万5千人を超える方が亡くなられ、今なお5千人近い方が行方不明となっています。大津波による被災に加え、福島第一原発事故も発生し、広範囲にわたって未曾有の被害や影響がございましたが、「頑張れ東北」を合言葉に、支援と復興に向けた取り組みの輪が全国に広がっています。

本市におきましては、今回の東日本大震災を来る南海大地震と重ね合わせ、被害想定や津波・避難対策などの見直しに取り組んでおります。障害者や高齢者等の援護が必要な方々を、被災からどう守り、長期化が予想されます避難所生活をどう支えるかといった多くの問題や課題がございますが、大切なことは人と人のつながりであり、地域コミュニティを大切にすることであると改めて実感しています。

江ノ口地区社会福祉協議会の皆様方には、今後とも地域福祉の推進のためにご尽力賜りますようお願い申し上げます。

最後に、貴会の今後一層のご発展と、高橋尚良会長さんをはじめ会員の皆様方の益々のご活躍を心から祈念いたしまして、創立六十周年記念にあたってのお祝いのことばとさせていただきます。



江ノ口地区社会福祉協議会 創立 60 周年を祝して

高知市社会福祉協議会
会長 吉 岡 諄 一

江ノ口地区社会福祉協議会が創立 60 周年の記念すべき日を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。江ノ口地区社会福祉協議会は、昭和 26 年 6 月 2 日、戦後の住宅難や物資の不足、インフレによる経済難など市民生活が困窮する中、他地区に先駆けて設立されました。

昭和 26 年という年は、朝鮮戦争が勃発して一年余、マッカーサー元帥の解任と休戦会談による軍事境界線の確定、さらにサンフランシスコ講和条約と日米安保条約の調印という戦後政治の枠組みが決められ、一方、高知市では戦災復興事業が鈍音高く進む中、市内 27 校で学校給食が開始され、また第 1 回の夏季大学が開催されるなど、貧しいながらも人々の生活に一定の落ち着きが見え始めた年でもありました。当時の江ノ口社協の決算書を拝見しますと、歳入の約 8 割が会費と寄付金収入であり、歳出の約半分が慰霊祭費、児童遊園地費、生活困窮者費として支出されています。特に創立当時は資金も乏しく、関係者が私財を投じて事業を実施することも一再ならずあったようです。それ以来、江ノ口地区社協は、歴代会長をはじめ会員各位の物心両面にわたる献身的なご尽力に支えられながら発展されてきました。

本年 3 月 11 日には、未曾有の災害をもたらした東日本大震災が発生し、江ノ口地区社会福祉協議会の皆様には被災者支援のための義援金や支援物資等の救護活動に多大なご尽力をいただきました。この高知におきましても、近い将来、昭和の南海地震を上回る規模の大地震が発生することがほぼ確実視されています。高知市社会福祉協議会といたしましても、先の東日本大震災の経験を教訓に、それが何時到来しようとも、いかなる規模のものであったとしても、準備を怠ることなく被災者救護に万全を期してまいりたいと存じます。

私ども高知市社協も創立 60 周年を迎えますが、これからも江ノ口地区社会福祉協議会の皆様方と手を携えながら地域福祉の向上と発展に向けて努力を重ねていく所存であります。

江ノ口地区社会福祉協議会が、創立 60 周年という記念すべき日を契機とされまして、地域福祉の先駆者として今後ますます発展されますようご期待申し上げます。



螢がり

江ノ口社会福祉協議会

顧問 和田 寿美男

郷里を離れて60余年、丁度螢の飛ぶ頃田植が一段落してヤレヤレと腰を伸ばしている。田休みに一杯やろうと近所の友人家族に集ってもらい、私の田が地藏寺川に面して三〇〇米位あり、畦が四尺もありコンクリート造りであるのでオキヤクをするのには最適である。近所の婦人が五目飯やらその他を作った小宴である。酒が廻ってくると唄が出る、話も大きくなる。近所の牛使いの名人の唄がまたよい。昔聞いた頃は子供なので意味がワカラン所が多かった。一つおぼえているのは曾さんは馬鹿のヤツダヤへそばっかしネタ。私は三寸下ネタはそうだろまったくだ。

螢が乱舞する川の瀬で蛙がメスを呼んで声を張り上げて唄っている。子供は螢とりに土手を走りまわる。あの頃が懐かしい古い思い出である。

話なき日々のままごと遊び
思い出多いあの山川は
昔の姿そのまゝに変わりぬ
清き流れは昔の吉野川
今はダム湖の汚れ水
世の変化^{かわ}りゆくその姿
明日と言ふ日はどうなる
人の心は変れども
何日も変らぬアノ山と河
昔と変らぬ鏡川
清く流れて浦戸湾
鳴々古里に勝るものなし

幸せの雨
雨が降る優しい雨が降る
江ノ口は優しい人の多い福祉の町
きらきらと愛宕八丁春時雨に
相生傘の二人連小雨よ有難う
霞む筆山、五台山
雨よ降れ降れ雨よ降れ
にわか雨よりそう肩がふるえてる
土佐場所^{ところ}に維新三志の揃いぶみ
よう見えてる土佐の三志は男前
弥太さんが俺をどうしてのけたがよ
長良川はねる若鮎^{わか}かがり火に
よさこいの鳴子で咲いた恋の花



2002～2010 会長

江ノ口社会福祉協議会

顧問 上 地 清

江ノ口社会福祉協議会が本年創立60周年を迎えられましたことは、誠に同慶の至りに存じます。私は和田寿美男会長様の辞任に伴い2002年の5月24日の定時総会において会長に選任されました。総務部長の経験しかない私にとりましては重責を背負うこととなりましたが、三役をはじめ各部長さんの豊富な経験に支えられて温故知新、漸進改変をもって地域福祉にお役に立ちたいとの思いで一途に取り組んでまいりました。

江ノ口社会福祉協議会は、全国に先駆けて1951年6月創立し、時代の変遷を経て先輩たちが培ってこられた奉仕活動の気風は当協議会の基となっており、この地域の人々の中に今も脈脈と流れています。今世紀、急速に少子高齢化を迎え国の制度が機能不全になってきており、特に社会福祉の面では混沌とした状況にあります。このような状況での社会福祉協議会をはじめとする民間奉仕による生きがいづくりの奉仕活動がますます重要な意味を持ってまいりました。朝霧の奥深い山道に佇む一人の少年に優しく声をかけることで少年は勇気をもらい再び歩き始めるでしょう。今混沌とした世情の中で、老いて行く不安、子ども達の不透明な将来への不安など心配すれば限りがないほどです。「向かう笑顔に矢立たず」と言います。私はこのことを心掛けて生きるという責任を果たして参りたいと思っております。

私が江ノ口社会福祉協議会に在籍中は、その理念、定款、行動指針について、いろいろ考えさせられました。納得するものではありませんでした。みんなで考え、みんなで行動し、懲りずに継続してまいりましたが、結果として之でいいのだろうか。これが私を悩まし続けてきました。

しかし、一方ではその成果に大いに満足しみんなで喜びもしました。要は何にもしないと、もともとも状況は悪くなるということです。

前進さえしておれば、何時かは其々が抱く夢に近づいていくことだけは間違いない真理です。

この20年近く一緒に社会福祉事業に携わってこられた同志のみなさん本当にありがとうございました。皆様のあたたかい心、友情、好意は私にとってかけがえのないものとなるでしょう。江ノ口地域の「奉仕の心」の灯がいつまでも燃え輝くことを信じます。



創立 60 周年の思い出

江ノ口社会福祉協議会
相談役 西岡 百合子

江ノ口社会福祉協議会創立 60 周年を迎えましたことを心からお慶び申し上げます。創立にご尽力されました当時の方々、その社会福祉活動の流れを守り育てて来られた諸先輩のご努力に頭が下がります。

私は昭和 43 年に民生児童委員に委嘱されてすぐに何も分らないまま社協の婦人部員となり先輩のご指導を頂き乍ら総務部、敬老部と携わって参りました。最初に思い出すのは社会を明るくする運動で江ノ口秦地区を青少年の健全育成と非行防止を呼びかけ数台の車で廻ったこと、そのうち道路事情で非行防止等と書いたタスキをかけて各町内をチラシを渡し乍ら歩いたことです。

また甚大な被害をうけた昭和 45 年の 10 号台風、各種団体の方々と救援活動を行いました。救援物資を持参したお宅の廊下から七十糶上まで水が来たと、その時の状況を話された奥さんの面影が忘れられません。思い出の糸をたぐれば果てしなく、昭和 60 年に思いがけなく社協が東西に分離した当時のこと等々。と同時に先輩の平地さん吉良さんが浮んで来ます。何かとご指導を頂いたお二人です。敬老会の会場も江ノ口小学校の体育館、ここは床に敷物を敷きその上に椅子を並べたり、また一人一人の履物をビニール袋に入れ各自に持って貰ったことでした。そして次は江ノ口文化センターへ、現在は高知市保健福祉センターの立派な会場で嬉しい限りです。

ふれあいの会で好評だったと思われるゼンザイと白玉は、前日部員がずい分心を配り乍ら作ったことでした。当日暖めるため、七輪と炭を持参下さった野村千代子さんを忘れられません。敬老部員として長い歲月何かと沢山のことを学ばせて頂き、部長の役目をも果たすことが出来たのも、皆様のご援助の賜物と感謝申し上げます。これからも社会福祉活動に努力と協力は惜しまず続けたいと思っております。皆様方のご健康と江ノ口社会福祉協議会の発展をご祈念申し上げます。



私の遍歴時代（タイトル盗用）

江ノ口社会福祉協議会
総務部部长 小倉 卓

年を重ねるごとに、昔の記憶が曖昧になっていくことは、全ての人間にとって仕方がないことである。時間のズレや場所の間違い、ひどいものになると相手方が誰であったかと思いつけぬことである。併しながら時間の経過を丹念に追っていきと徐々に正確性を帯びて、時代の状況や自己を取り巻いていた環境そして人間関係が鮮明な姿となって眼前に顕れてくる。

そんな時間を与えていただいたつもりで私の遍歴を訪ねて見たいと思う。私のルーツはまず父である。父は大正3年5月31日生まれである。丁度この年は、第一次世界大戦が勃発した年であり、大正デモクラシーの時代である。小学生の私は父から随分と苦勞話を聞かされた。父が利発な子どもであったことは父の兄弟からの話で推察できる。余談であるが祖父に纏わるこんな話を聞いたことがある。祖父は幼いころから習字が上手だったらしい。新聞社の習字コンクールに出品したが落選した。学校の先生が新聞社を訪ね落選の理由を聞くと「これは子どもの字ではない。」と言うことである。祖父が習字なら父は絵である。父が小学校高学年のとき新入生のため畳一畳位のキャンパスに数人の子どもが選ばれ描くことになった。そのとき先生から最初に一ダースのクレパスが提供された。普段はちびくれた鉛筆やクレパスしかもっていない父である。使い切れればまた新しいものが提供される幸福感。私が小学校の頃は、10円と5円の2種類の鉛筆があった。10円の鉛筆を使い短くなれば捨てていた。

よく聞かされた話は戦争の話である。父は甲種合格で砲兵として徴兵された。あるとき上官から何のために戦っているかと聞かれ、父は「勝利のためであります。」と答え、ばか者と言われ、上官は起立し「天皇陛下のため…」であるといい、ビンタを食らった話を聞いた。私は子供心に深い悲しみと国家への不信感へと禁じえなかった。このような伏線のもとに青年時代は2・26事件、北一輝へとつながっていく自分を発見することができる。字数の制限によりほんの入り口の遍歴である。最後に一番好きで、最も嫌いな父へ。





梶原の歴史と現在

江ノ口社会福祉協議会

交通防犯部部长 中越利夫

江ノ口社協の60周年を迎え心からお祝い申し上げます。私も江ノ口社協に従事して40年余りになります。当時の会長さんは濱川金兵衛氏でした。今は七代目の会長さん高橋尚良氏の元でお手伝い出来ますことを、幸福に思います。私も故郷梶原を離れて50数年になります。古里を思い出して梶原の歴史にふれてみたいと思います。

梶原は四国山地に抱かれた山間地帯、県の北西部、高岡郡の北西部に位置し、東は東津野村、南は窪川町幡多郡大正町、西は愛媛県北宇和郡日吉村、城川町、北は愛媛県東宇和郡野村町、柳谷村に接しています。梶原を含むこの地域は、古来津野山と呼ばれ明治22年、市町村制の確立されるにあたり、従来津野山郷に属した四万川、越知面、梶原、初瀬、中平、松原の六村をもって西津野村を設置し、同45年梶原村と改称、昭和41年11月3日に町制を施行しました。人口は5323名でありました。

近年では土佐のチベットと呼ばれている四国山地に抱かれた県境山間地帯で、四万十川の上流梶原川、および支流、北川、四万川などに沿って55の集落が点在します。年平均気温が13.6度で年間降雨量は2670ミリ、県内有数の多雨地帯に属し、しばしば風水害や大雪に見舞われています。耕地面積が2.7パーセントに過ぎず、林野が総面積の約90パーセントを占めています。

農業経営には恵まれず林業が大きな支えとなっていました。山間部のため交通は不便であり北部県境23キロメートルに及ぶ四国カルスト、県立自然公園はその雄大な自然と豊富な草地を利用して観光、畜産の両面で開発されています。

昔から梶原には茶堂と云う制度があり、旅人を集落の人達がもてなしの心で接待をする風習が残っています。坂本龍馬の脱藩の道筋にも何ヶ所か残っています。

当時チベットと云われていた梶原町まで、今では高知市より1時間20分で行くことが出来るようになりました。そして町の取り組みとして環境と福祉に力を入れ、また風力発電、太陽光発電、小水力発電、間伐材を利用したバイオマス燃料等に取り組み、町内の電力の30パーセントを賄っています。将来は100パーセントにもってゆく努力をしているようです。



創立 60 周年と 東北・関東大震災の襲来に思うこと

江ノ口社会福祉協議会
青少年部部长 村岡 眞佐子

江ノ口社会福祉協議会が創立されて 60 周年、これまで当会の運営・発展に寄与された関係のみなさまおめでとうございます。

この節目の年に、青少年部長をお受けしたことの責任を、重く感じているこの頃でございます。

本年 3 月には、東北・関東地方に巨大地震が起き、予想だにできなかった大津波が各地を襲い、いまだに行方のわからない家族を探す方、保護者を失った子どもさんたちが、沢山おられます。当県も近い将来、南海大地震が起こるといわれ、予てより対策が呼びかけられていましたが、より一層の警告報道がされるようになりました。

青少年部は、青少年の健全な育成を念頭に、年 1 回「小学生とのふれあいの会」として体験型の日帰りミニ旅行を実施すること、「江ノ口まつり」「一ツ橋まつり」に協賛して、お手伝いをしながら子どもさんと触れ合うことが、主な活動となっています。

頑張れば・まじめに働けば・・・という平穏な日々を過ごさせていただいておりましたが、この 10 年間に社会情勢が激変し、子どもたちに夢を語ったり、希望について自信を持って話すことができたい状態のところ、今回の震災が起きました。

被災地のみなさまが、復興に向けて頑張っている姿、大人に頑張る元気・勇気を与えている少年たちの姿を見ると、青少年の健全育成・社会福祉のあり方を問われているようにも思えます。

親（おとな）の生き方が、子どもに反映されると言われます。コミュニケーションができない人が、増えていると言われます。

沢山の子どもさんと、深く接することはできませんが、少ない活動の機会を捉えて、子どもさんたちに、少しでも良い影響の与えられる活動の場になればと願っています。



小学生ふれあいの会 あすたむらんど徳島 H23.10.30



小学生ふれあいの会をふりかえって

江ノ口社会福祉協議会

前青少年部部长 賀田 義幸

江ノ口社会福祉協議会創立60周年お祝い申し上げます。私も江ノ口社会福祉協議会理事として足かけ9年になりました。最初は右も左もわからず只々諸先輩に右にならえとやっていたのですが、平成18年度より平成22年度迄の5年間、青少年部長を務めさせていただきました。青少年部のメイン行事は小学生ふれあいの会です、体験学習が出来るような行事を実施すればとのご意見の中、香我美町岸本にて地曳網漁と赤岡町の絵金蔵見学、愛媛県立砥部動物園見学、香川県琴平町で手打ちうどん体験と金毘羅宮参拝、龍河洞と山北みかん狩りをそれぞれ実施いたしました。平成21年度は新型インフルエンザ流行のためやむなく中止といたしました。

私が青少年部長の時に実施したふれあいの会は以上ですが、ふりかえって思うのは、やはり体験学習的な行事が子供たちに人気があったと思います。私として印象に残っている行事は、香我美町岸本で実施しました地曳網漁です。獲れたのは小鮫が殆どでしたが、新鮮な子鮫を岸本漁協の皆様にご湯引きにいただき浜辺で食事をしたことです。昔ながらの漁法を学ぶとともに自分たちで漁をして食す、食の原点にふれることが出来て良かったと思います。次の70周年に向かって一歩一歩あゆんでゆくわけですが、高橋会長との和の精神のもと一生懸命頑張っていきたいと思っています。



昭和26年頃の受名商店街 /丁目



ご縁で不思議

江ノ口社会福祉協議会

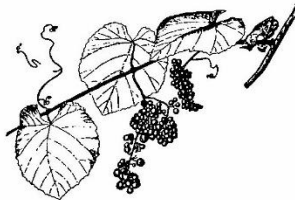
青少年部理事 澁谷 三鶴

江ノ口社会福祉協議会発足60周年、誠におめでとうございます。

安心して暮らすことの出来る「福祉の町」江ノ口の住民になりまして35年、諸先輩方の築かれた丈夫な大きな基礎の上に立っていることを思う時、心からの敬意と感謝を申し上げます。地域福祉と一口に申しますが、切り取られた特別な何かではありません。高齢者問題、貧困問題、虐待問題等、様々な課題が身近に存在しています。「誰かがやるだろう」ではなく「自分に出来ることは何だろう」と心に問うています。人間関係の希薄さ、地域力の衰え、地域コミュニティーの崩壊が論じられて久しくなります。この度の東日本大震災の報道を見てもこのことが、早急に取り組むべき課題であると報じられています。「向こう3軒両隣」よく聞く言葉です、お隣さんとしてまた同じ地域に住む者同士、思いやりの気持ちをもって、気使い合い見守り合いをしてゆくことが心のもちようとして大事だと、また、今そのことが求められていると思います。弱者の方の心に寄り添いながら、出来る人が、出来る時に、出来ることをやってゆきましょう。

46年前、元江ノ口保育園園長弘田千鶴子先生から始まり濱川金兵衛先生へと繋がったご縁が、出会うべくして出会い、結ぶべくして結ばれるご縁を経ながら今日に至っているのだと知るとき、ご縁の不思議さを思わずにはいられません。人との出会いを大切に、頂いたご縁を大切に、をモットーに生きてきました私にとりまして、高橋会長が掲げられた「人の和を大切に」と言う理念こそ大事な考え方だと思います。この思いを共有しながら今後この地域で自分をどう役立たせることが出来るのだろうか、自問自答しながら「福祉の町」と言われるに相応しい江ノ口であり続けるために、諸先輩のご指導を頂きながら頑張りたいと思っております。

ご縁を頂きました地域の皆様、本当に有り難うございました。改めて、宜しく願い致します。





期待される社会厚生部の活動を

江ノ口社会福祉協議会
社会厚生部部長 高 階 進

江ノ口社会福祉協議会、創立60周年誠にありがとうございます。

私は3年前の一ツ橋町内会連合会総会後の宴席で、上地前会長より、当会の役をお願いしますと言われ、詳しい内容も分からずに引き受けたのが社会厚生部長でした。

前の部長は宝町の民生委員をされていた徳弘さんでしたので、ある程度の引き継ぎはして頂きましたが、何分にも突然のことで手探りの状態でこれと言った活動も出来ないまま、3年目を迎えました。

社会厚生部としては毎年、法務省主催の社会を明るくする運動の強調月間「7月1日～7月31日」に県、市合同の決起大会・パレードに参加すると共に、江ノ口地区の社明運動実施委員会に協力金を交付し活動に協力しています。

また更生保護施設にも交付金を援助しています。また、法外援護費や緊急援護費等毎年予算には計上されていますが、今までに相談や要請はなく執行はされていません。おそらく一般の方には知られていないのではないかと思います。

8月6日に今年度、第1回の社会厚生部の会合を開催し、何か厚生部としての有意義な活動がないか話し合いました。その中で今、各所で盛んに行われ話題になっている「いきいき百歳体操」が江ノ口コミュニティーセンターでも行われている、これらに何らかの援助は出来ないかと言った参考意見が出ました。高齢化が進んでいる今日、いきいき百歳体操を通じて老人の皆さんの話の場、憩いの場そして健康が維持出来れば大変喜ばしいと思っております。次回の会合では具体的な取り組みについて話し合いをしたいと思っております。

私の住む町内会（宝町町内会）では今年度より町内会行事として、毎週金曜日に「いきいき・かみかみ百歳体操」を実施しております。これも老人福祉の一つの大事な事業と考えております。

今後他の部会とも協力をしながら、江ノ口社会福祉協議会の充実と発展に寄与できればと思っておりますのでご支援を宜しくお願い申し上げます。





～ つながりの糸を紡ぐ ～

江ノ口社会福祉協議会

敬老部部长 邑田 康 恵

元気な高齢者はすごい。なんでも一人で行動し、同年輩のお世話だってできる。今日は「ミニデー」明日は「百歳体操」老人と呼ばれるのは心外と言いながら「老人大学」に通ったりもしている。

しかし、一方で「今は病院と家の中でゴトゴトするのが精一杯よね。この間まで、あんなに元気やったのにねえ！」と、おっしゃる高齢者の方もいらっしゃる。

江ノ口社会福祉協議会主催で民生委員が協力して開催している「敬老会」や「ふれあいの会」への案内状をお届けする度に、どこの町内でも交わされている光景だ。

現在江ノ口西地区で高齢者と呼ばれる方は1,500名余り。どうすれば互いを慈しみ、安心して暮らしていけるかと考えた時、身近に強い味方が誕生しているのを皆さんはご存知だろうか。

「生涯、健康に暮らす」「医療環境を守り育てる」「支えあい生き生きと暮らす高知型福祉の実現」を三本柱にした高知県が掲げる「日本一の健康長寿県構想」を。今からだって決して遅くない。この強力な三本柱をバックにご自身はもちろん、ご家族、お友達、ご近所、そして見守る立場の私たちが相互理解し、協力をするのが不可欠である。

私たちは、今年3月に起きた未曾有の大震災を決して忘れない。あの日を境に皆が自分自身のこと、周りの人のために今、何が出来るかと、改めて問う機会を得たように思う。結果、皆の心が一つになった。「元気に生きていだけで幸せだ。」と避難所で言ったおばあさんの言葉は、とても心に重く響く。

だからこそ、この地域に生きる一人の住民として今、何をすべきかを自問自答し、皆とつながりの糸を一つ一つ紡いでいかねば！

最後に、諸先輩方が地道に活動し築いたレールの上を、まっすぐ歩けることに感謝します。





いのち
生命をつなぎ いのち紡いで

江ノ口社会福祉協議会
女性部部长 齋藤 民

社会福祉協議会創立60周年、先人の知恵をつなぎながら、現在を刻んでいます。

私自身も早や半世紀以上を生きています。すでに人生の折り返し地点を通り過ぎ、年齢と共に下っていく身体レベル、私の行く水泳教室には80才を過ぎて尚、500m～1000mを悠々と泳いでいる人達があります。大正、昭和初期の人達には、秘められた生きるための活力がある様な気がします。心身共に鬼気迫る戦中戦後を生き抜いて来た強さなのかも知れませんが、小さな幸福が大きな幸福に感じられた毎日、自然と共存しながら物を大切に生きた時代がありました。物のない時代、自分達で工夫して遊んだ子供の頃、日の暮れるまで外に響いていた子供達の声、小学校も人数が多く、図書室も教室の一隅にあり、シャーロック・ホームズの本を借りては、読みふけていた。中学時代は木造校舎から、無機質な鉄筋コンクリートに変る移ろいの中にいた。隣近所の密な時代、何もなかったけれど、手を伸ばせば大きく包み込んでくれる暖かさが、そこにはありました。介護保険導入の前は、病院に生活空間を置いている高齢者も多く居ました。皆が一番望むことは健康で日々過ごしたいと云うこと…友に囲まれ家族に愛されて楽しく生きる。

コミュニティセンター4階で毎月第2水曜日に開かれるミニ・デーに携わってから6年目、諸先輩方の教えを受けながら、現在ミニ・デーに足を運んで下さる方達と共に、私達も一緒に成長し頭の体操や歌に合わせ軽い手足の運動、講演会等を企画すると、一人で居ることの多い方も、ここでは自由にお喋りを楽しんで笑顔になって帰って行きます。こんな風な当り前の日常が、一瞬にして奪われた3月11日の東日本大震災、津波、原発事故、放射能の汚染に怯えながら暮らす人々、未曾有の災害だが人災でもあると思います。人間は、余り欲張らず、ゆっくりと自然との会話を楽しみながら歩みを進めて行きたいものだと…、子供達の未来を守るためには、何をすべきか考えさせられる日々が続いています。

息をして
大きく息を 吸い込んで
自由な命 取り戻したき



東北の祈りを教訓にして

江ノ口社会福祉協議会

女性部副部長 岡 林 秀 子

江ノ口社協60周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。

十年一昔と申しますが、50周年祝賀会がついこの前のこの様に思い出します。江ノ口社協60周年の歴史の中で、私も40年50年60年と多くの諸先輩や皆様のご指導を受けながら、共に歩んでこれましたことを感謝と共に喜び合いたいと思います。

今年3月11日の東北地方の震災による津波は想像を絶するものがあります、次々と押し寄せる黒い波に何もかも飲み込まれる様子は、唯々恐ろしさを覚えることでございました。そして、原発事故による私達が知り得ていない険しい問題が現地の人々を苦しめています。私達の周りでも近い将来必ず起こると言われております南海地震に備えて津波や豪雨による被害を防ぐため、久万川の浚渫や堤防の防災強化等、人命と財産を守る点検が必要だと思います。そして、避難用具や避難場所を確認し、自分の身を守ることをしっかり考えておくことが大事だと思います。東日本大震災の犠牲と教訓をしっかり生かした対応を考えなければなりません。

【女性部の活動状況】

(1) 内外共に多難な年ではありますが、超高齢化の中で私達女性部は、老人福祉の問題に取り組んでいます。人の心の結びつきが薄れつつある昨今ですが、毎月行っておりますミニデーを通じてお互いを労わり、助け合い支え合って皆が健康で生きて行けます様願っています。

保育園児に来てもらって童心に帰り、一緒に踊ったり唄ったり、また、ぬり絵をしたり、体操をしたり楽しんで下さい。お元気でミニデーに参加をお待ちしております。

(2) 女性保護対策推進会に助成を行うと共に事業活動に参加しております。





青少年部と会計

江ノ口社会福祉協議会

会計理事 濱川 良子

江ノ口社会福祉協議会の創立60周年を心からお祝い申し上げます。私は、平成4年12月1日に民生児童委員の委嘱を受け、同時に江ノ口社協青少年部の担当になりました。当時は、総務部、社会部、厚生部、敬老部、交通防犯部、婦人部、青少年部の7部があり、私と同期の民生委員さん8名は、(総務部) 武林英雄さん、(社会部) 岡本陽一さん、(厚生部) 竹下あきさんと内川道子さん、(敬老部) 市村峰子さん、(婦人部) 谷岡直さんと山本昭子さん、(青少年部) 浜川良子と、それぞれの部に配属されました。現在は、社会部と厚生部がひとつになり社会厚生部、婦人部の名称が女性部に変更になるなど、19年の時の流れとともに、江ノ口社協も推移してまいりました。

平成14年度から、青少年部長をさせて頂くことになりました。部員時代は、行事の時も、参加している児童達といっしょに遊んだり、怪我や事故が起きないように注意して見守るくらいでしたので、自信がなく、部長の打診があった時は即座にお断りいたしました。ですが、結局断りきれず部長をさせて頂くことになりました。

平成14年度は、江ノ口小矢野正教頭先生(当時)が提案してくださった、「室戸少年自然の家」に行くことになりました。下見は12月15日。阿部兼士副会長が自家用車を出してください、井上智子会計、澁谷三鶴副部長、私の4人で出掛けました。室戸沖でミニクルージングができること、送迎バスを出してくださること、雨天の場合の竹トンボ作りや工作の部屋の確保等、係の方と色々打ち合わせをさせて頂きました。自然林の中でのアスレチックの見学もいたしました。不安でいっぱいの新米部長を力強く支えてくださり、何とか無事第一回目の行事を終えた時には、安堵感とともに感謝の気持ちでいっぱいでした。

現在私は会計を担当しておりますが、青少年部さんにお声を掛けて頂いて、行事に参加させて頂いております。未来ある子供達に元気をいっぱいもらって、これからも正確な会計を心掛けていきたいと思っております。





大切な“自然や日常の生活”

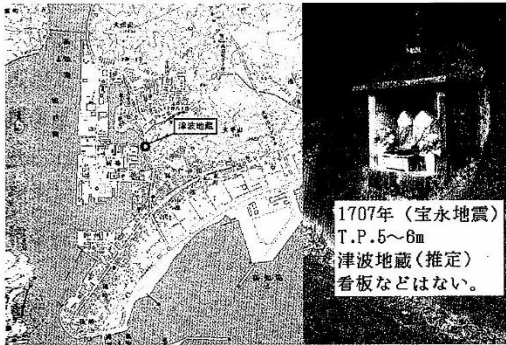
江ノ口社会福祉協議会

監事 松田 誠 祐

祝江ノ口社会福祉協議会 60 周年。会員の皆様のご活躍に敬意を表します。

さて、3月11日に東日本で発生した巨大な地震と津波、福島原発事故は、被災者に塗炭の苦しみを与えました。被爆国の日本が、放射能汚染の加害国になってしまいました。

東日本大震災と福島原発事故を経験した私たちは、この経験をあらゆる方法で後世に確実に伝えなければいけないと思います。貞観地震津波（869）や明治三陸地震津波（1886）でも、場所によっては今回と同程度の津波が発生したと言われています。しかしそれを多くの人びとは知りませんでした。あるいは故意に避けた可能性もあります。今回も元ところで生活を再建したいと考える人も多し、人々はそれを繰り返してきました。記録的な津波災害や洪水災害を受けた地域では、絵や活字のほかに、石碑を建てて後世に伝えてきました。私はもっと沢山の石碑を建てるべきであると思っています。それを日常的に見、自分たちが生活している場所の危険性を知り、その上で利便性を求めて生活していることを理解します。避難勧告が出て、危険を感じた人は避難するでしょう。



しかし、原発から放出された放射性物質は、人の五感でとらえることが出来ず、大切な“自然や日常の生活”を破壊しています。限りなく処理不能に近い使用済み核燃料をどんどん作り出している原発は“即刻止める”べきです。

高知市社協会長吉岡氏の「想定外に学ぶ」（高知新聞 2011・8・22 所感雑感）を興味深く読みました。『災害ボランティアセンターの業務は、被災住民の「ニーズの把握」、各地から到着する「ボランティアの登録」、そして両者を適合させる「マッチング」という3業務』、中略。『開設前に終えておくべき準備作業に忙殺された。』中略『センターそのものの存在も被災地ではほとんど周知されておらず、…』と述べています。地域に根付いた日頃の社協の活動を大切にすると共に、非常時を体験した方に学ぶ機会をもちたいものです。



飽食時代の健康危機

江ノ口社会福祉協議会
監事 森 千代範

江ノ口社協創立 60 周年を迎え心からお祝い申し上げます。

私は、江ノ口社協の一員として、お手伝い出来るようになって、歳月も浅く役員の皆様方に学びながら今日に至っております。

戦後の食糧難時代に十分な栄養が摂取できなかった時代を生きてきた世代人でこの現代が予測、想像されたでしょうか！！今は「飽食」「食生活の洋風化」で簡単な食べ物と、外食の氾濫による健康を害する危機の時代が社会問題となっています。

コメ先物買い復活（72 年ぶり）という報道がありました。コメどころが豪雨、震災、原発等の被害を受け需給が一時的であれ逼迫すると予想されています。私達が生きていくためには、食べ物を欠くことはできません。

近年の食料問題は、自然環境（地球温暖化等による）の悪化による食料危機が懸念されています。それに加えて、経済的格差により飢餓にあえぐ地域がある一方で飽食を享受し、膨大な食品廃棄が常態化する地域があります。

「所得が上がれば澱ぶん質から、動物性タンパク質にシフトするのは、人類史的傾向」と指摘するのは、大妻女子大の田代洋一教授（H21 年時）で、豊かになるに連れ欧米型の食生活へととなります。

私は常日頃思っていることは「もったいない」ということです。世代が分かると思われますが冒頭の時代を過ごしてきたからで、レストランなど（宴会も）で食べきれなかった料理を持ち帰ることは「格好悪い」ことでしょうか。

日本が廃棄する食料は年間 2000 万トン。これは国内消費量の 20% 近く廃棄している計算になるといわれています。

これら食べ残したものは可燃ごみになって排出され、行政による運搬車で処理、この搬出処理は、税金によってまかなわれていると思っているからです。

長い歴史の中で「食」について考え、経験し、そして食文化を築き健全な食生活を実践しながら生きる力を育んできました。現在「食」に対する意識が希薄になりつつあるなかで、もう一度「もったいないという気持ちをもつ」ことも大切だと思います。家庭の事情はいろいろあるでしょうが、地元には一ぱいおいしいものが安全でしかも安く作られています。

次代を担う子ども達には「安心して、食べさせる」ことを心掛けることが、大人社会の務めであり、あらためて、日本食文化のよさに光を当ててほしいと願っております。



江ノ口社協創立 60 周年に思う

江ノ口社会福祉協議会

副会長 福留 一 男

江ノ口社協創立 60 周年、おめでとうございます。

この協議会は昭和 26 年、戦後間もない復興途上の大変な時期に、他地区に先んじて設立され、地域福祉の向上に取り組まれた初代山本義孝会長を始め、社協の発展に尽くされた先輩の方々に、深く敬意を表すると共に心から感謝申し上げたいと思います。

資料によりますと、創立当時の主な活動内容が、生活困窮家庭の援助、戦没者の慰霊祭、児童遊園地の設置など、当時の時代背景、市民生活の状況を反映した活動が行なわれており、活動費の主なものが有志の寄付金、会員の会費、共同募金の交付金でありまして活動資金面でも御苦勞の多かったことを伺い知ることができます。

歴代の会長さんを始め、社協の活動に尽くされた役員の方々に、深く感謝申し上げたいと思います。

私は平成 7 年から民生委員の地区の会長を拝命した関係で微力ではありますが、副会長として参画させて頂くことになりました。

経済の発展と共に福祉制度も改革整備され、介護保険制度の創設などにより、行政により与えられる措置制度から、利用者が選べるサービス選択制度への移行により、新たな制度が定着しつつありますが、介護保険制度の適用を受けない元気なお年寄りの生きがい対策なり、介護予防の対策など、地域で支え合うコミュニティづくりが重要になると思います。

これから青少年の対策も含め、地区内の関係団体で社協が中心となって連携を深め、住民参加の福祉の輪を大きく広めて行かなければならないと思います。

ブルースの女王「淡谷のり子」に
扮した上地前会長を囲んで





創立 60 周年によせて

江ノ口社会福祉協議会
副会長 岡村 康 良

私が信仰しています日蓮大聖人の御書の一節には「^{たから}蔵の財よりも身^{たから}の財すぐれたり 身^{たから}の財より心^{たから}の財第一なり」との御文があります。(御書全集 1173 頁崇峻天皇御書)

本年 3 月 11 日午後 2 時 46 分に発生した「東日本大震災」は、東北から東関東の広大な地域にわたり、私たちの想像をはるかに上回る想定外の甚大な被害を及ぼす大惨事となりました。半年を経た 9 月 12 日現在の死者は 12 都道府県で 1 万 5,782 人、行方不明者は 6 県で 4,086 人という未曾有の大災害となりました。尊い生命を亡くされた方々に衷心より鎮魂の祈りを捧げますとともに、まさに地獄の状態の中で、かろうじて一命を取り留められたご遺族の方々をはじめ被災された全ての皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

震災後「がんばろう日本!」「支えあおう日本!」とのスローガンの下、国内は勿論全世界で人間連帯の「絆」が生まれています。

現地では今だに行方不明者の方々の必死の捜索が続いています。現場は目に見えない放射能の汚染による恐怖と一面瓦礫の山々の状況の中で、地元の方々は「負けてたまっか!」「必ず再建する!」との強靱な心で懸命に復興再建に取り組まれていると聞きます。この根底にあるのは想像を絶する筆舌に尽かせない阿鼻地獄の中で、九死に一生を得て生きている生命があることへの感謝の気持ちと、残された者の使命だと言う強い思いにあるとも聞きました。

人生何が起きるか解りません。どんな悲惨な出来事に遭遇するかも解りません。しかし何があっても負けない強い人間でありたいと思います。そして微力であっても自分に貢献できることは何かを真剣に考えさせられます。

今から 60 年前の昭和 26 年 6 月当時は、戦後の荒廃からようやく平和国家の復興に立ちあがろうとしていた時代です。最近になって福祉の重要性が叫ばれ社会保障の拡充が真剣に論議されるようになりました。私たち「江ノ口地域」の偉大な先人の皆さんは、自らの生活をも顧みることなく最優先で地域の弱い立場の方々の救済と支えあいに毅然として立ち上がられました。根拠となる法律等々が整備されない以前に尊い組織を創設して下さいました。そして代々の役員の皆様が一致団結して営々と組織を発展させ活動をさらに充実してこられました。

「江ノ口社会福祉協議会創立 60 周年」の誇りある慶賀を迎え諸先輩のご功績とご労苦に深甚の敬意を表しますと共に、未熟ではありますが高橋尚良会長さんを中心に皆様のご指導を仰ぎながら少しでもお役に立てれるよう一生懸命頑張っていこうと強く決意を致します。



光陰矢の如し

江ノ口社会福祉協議会
副会長 井上 智子

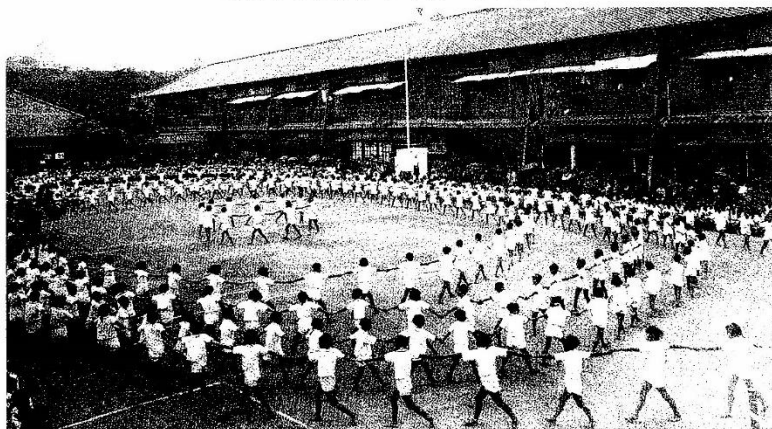
私の家は第六小学校の校区でしたが、6人姉弟の中、双子の私は一人だけ第三小学校（追手前小）へ行かされました。（昭和11年）高知市の中心部を占める校区で生徒数は1200人もいました。戦局の進展につれて近隣の学校と共にいつも旗行列や提灯行列に駆り出されたし、日によっては千人針の人ごみをかき分けて通ったものです。街はいつも賑わっていましたが、私は商店の子と仲良くなりよく遊びに行きました。時計・服・家具・靴など店内に並ぶ商品を眺めては楽しい気分でした。机20円…服13円…最高級品の桐のタンス200円の値札は今も覚えています。1銭でアメ玉3コが買えた時代。友だちもよく私の家へ遊びに来ました。その積極的な遊びっぷりについてはのちのち両親が述懐したものです。

今思っても他校に比して先駆的な面はあったようです。6年生の修学旅行は5泊6日で京阪神・伊勢まで行ったこと。親は反対しましたが、私は粘りに粘って参加できました。五十鈴川の水に手を浸したその冷たさは忘れません。また6年の時から全校完全給食が始まり、4時間目あたりから料理のにおいが流れて胃袋を刺激されたものです。

永野校長がことあるごとに説いた「ゆかが光れば心も光る！」を全児童銘としてアカギレ・しもやけを押しつけてガラスやゆかを磨きに磨いたものです。手塩にかけた木造校舎はとておいとおしくなつかしい思い出です。空襲を経て、学校名も追手前小学校と変りましたが、やがて学校の存在も消えようとしています。

—— まぼろしに浮かぶ母校の晴れ姿 ——

第三国民学校（追手前小）昭和十六年
大運動会の女子ダンス 生徒数千二百
左に高知城





創立60周年を祝して

江ノ口社会福祉協議会
副会長 井上 郁子

江ノ口社会福祉協議会創立60周年おめでとうございます。この佳き日を迎えることが出来たのも諸先輩方の地道な活動と、地域を愛し地域住民の福祉を推進し、私達に指針を示していただいた賜と感謝いたします。私達もこの社会福祉協議会が目指している目的に沿って、活動していかなければと思います。

さて、現代の社会情勢は、この協議会設立当時（昭和26年）とは大きく様変わりしています。一応見た目には物があふれるほどあり、社会全体が成熟社会といわれ、日常生活には困らないようになっていると思います。しかし、本当にそのような豊かに思える生活だろうか考えると疑問を持ちます。品物が豊富にあっても人間関係の希薄さ、地域住民の連携が失われてきているのではないかと痛感します。身近な問題として、隣同士での声かけや挨拶、日常生活を語り合える場所をも失っています。

そこで、地域で暮らしている人達に笑顔で声かけ、相手からも笑顔で返事が返ってくるよう、何気ない仕草にも気配りで接し、皆がこの地域で暮らしてよかったと思える地域づくりが必要です。

現代社会は少子高齢化社会といわれ、特に高齢者の比重が高くなってきています。高齢者が健康で明るい日々を送れるのは、幸せなことであると思います。

「基本的人権を尊重し、すべての人達が健康で文化的な生活のできるように努めましょう。」と高知県民福祉信条の中にあります。

今日のような先行き不透明な時代こそ、誰もが安心して暮らせる地域社会づくりを推進していかなければと再認識しています。



【いきいきかみかみ百歳体操参加者・宝町公民館】





子どもを見守り育てる活動に感謝

高知市立愛宕中学校
校長 谷 智 子

江ノ口社会福祉協議会創立60周年、おめでとうございます。

私は、一ツ橋小学校、愛宕中学校に勤務し、今年で10年目になります。その間、江ノ口社会福祉協議会の皆様には、子どもたちが本当にお世話になりました。子どもを見守り育てる活動をしてくださったことに、心から感謝しています。

とくに感謝していることは、次の3つのことです。

1つには、交通事故や不審者、犯罪などから子どもを守ってくれているということです。桃太郎旗の設置やカーブミラーの清掃、よさこい祭りなどの交通整理、交通安全祈願祭、地域安全パトロール、救命救急活動、交通防犯に関する行事参加など、子どもの命を守るために様々な活動をしてきています。本当にありがたいと思っています。

2つには、小学生のふれあいの会、一ツ橋まつり、江ノ口まつりへの協賛、民生児童委員協議会、青少年育成協議会への助成、社会を明るくする運動への参加・協力など、江ノ口地域の子どもの育てる活動を全面的に奨励してくださっていることです。

3つには、福祉町づくりふれあいの会などの高齢者福祉活動を行っていることです。高齢者を敬愛する子どもを育てるうえでも、子どもの成長にとって意義ある活動だと思います。

これまでの貴重な活動の数々に、心から敬意を表しますと共に、心から感謝を申し上げます。おかげで、この地域の子どもがより良く育っています。今後も子どもたちの健やかな成長のためにご尽力いただきますようお願いします。



愛宕中学校応援団と生徒会の皆さん。毎月第一月曜日PM8時～8時30分



60周年によせて

高知市立一ツ橋小学校
校長 副田 謙 二

創立60周年おめでとうございます。江ノ口社会福祉協議会のこれまでの活動に対しまして深く敬意を表します。

社会福祉協議会の活動は多岐にわたっており、地域住民は何らかの形でお世話になっております。学校も例外ではなく、子どもたちが楽しみにしている「夏まつり」や青少年育成協議会の催し、地区の交通安全活動などに、直接お世話くださったり、活動資金の支援をいただいております。感謝いたします。

学校は、日々子どもたちの健やかな成長を促すために、様々な取り組みを一生懸命に行っています。しかし、子どもたちの家庭や地域での様子について、十分に把握しているとはいえません。以前勤務していた学校での例ですが、『子どもが八時頃まで公園で遊んでいる』『親にきつく叱られ裸足で飛び出してきた』といった情報が寄せられ、市役所のケースワーカーとともに家庭訪問を行いました。幸いにも児童虐待の例ではありませんでしたが、その後も地域での見守りをお願いをしたことでした。本校においても子どもの見守りについては、お願いしているところであり大変心強く、またありがたく思っています。



子どもは、将来の地域社会を支える大切な宝です。ところが、子どもたちを取り巻く環境は変わってきており、以前のような隣近所、町内での結びつきが崩れ、地域一体となって子どもを育てようという意識が薄れているように思います。このような風潮の中、社会福祉協議会の皆様の活動は、

地域住民相互の結びつきを強め、地域の宝である子どもたちを健やかに育てていく上で、その重要度は今後増していくものと思います。

学校や子どもたちへの変わらぬご支援をお願いいたしますとともに、本協議会の益々の発展をご祈念いたしまして、お祝いとさせていただきます。



創立 60 周年に寄せて

高知市立江ノ口小学校
校長 片岡 正 樹

このたび、「江ノ口社会福祉協議会」が創立 60 周年を迎えられますとともに、12 月には、多くの関係の皆様方と記念行事が挙行されますことを、心からお喜び申し上げます。

また、これまで同協議会を長年にわたり支えてこられました会員の皆様方のご尽力に対しまして、深甚の敬意と感謝を申し上げます。

さて、私は今年 4 月に高知市立江ノ口小学校の校長として赴任し、江ノ口社会福祉協議会の皆様方から本校への支援を大変ありがたく感じております。

皆様方からは、「子どもたちのことで、手伝えることがあれば、何でも言うてよ」「学校ができんことでも、我々にはできることもあるき相談してよ」など、いつも温かいお言葉と勇気をたくさんいただいております。

夏の恒例行事となっております「江ノ口まつり」におきましては、協賛金や売店での出店や運営をはじめ、さまざまなご支援をいただき、子どもたちの明るい笑顔を見ることができました。こうした地域一帯となった行事等においても、同協議会の献身的なご努力の賜物であり、老若男女が一堂に集い楽しいひと時を感じることが出来ますことは、子どもたちの健全育成にとっても好影響を及ぼすものと考えます。

また、東北地方太平洋沖地震におきましても、義援金の取り組みや災害ボランティア支援について、いち早く対応されたと聞いております。

一方、同社会福祉協議会の役割は、こうした子どもたちの健全育成だけでなく、高齢者への支援、在宅福祉サービスや障害者への支援など、多岐にわたっております。また、今後、東南海地震も高い確率で起こることが懸念されておまして、こうした対応も迫られるところでございます。

いずれにいたしましても、今後におきましても地域の福祉をサポートし、年齢や障害の有無に関わらず、誰もが住み慣れた地域で暮らすことができる地域の実現を目指す日々の活動を充実されていくものと期待をいたしております。

最後になりましたが、「江ノ口社会福祉協議会」の今後ますますのご発展と会員の皆様方のご健勝とご活躍をご祈念申し上げ、お祝いのことばいたします。本当におめでとうございました。





創立 60 周年おめでとうございます

学校法人入交学園 あたご幼稚園
園長 野村 貞夫

社会福祉協議会は、戦後アメリカから導入され、1951年に制定された社会福祉事業法（現在の「社会福祉法」）に基づき、設置されたと伺っております。創立60周年ということですから、ここ江ノ口地区では、いち早くこの協議会を立ち上げていることがわかります。また、同時に、当時からの地域に、高い福祉性が存在していたことが伺えます。

私が、この江ノ口地区でお世話になりはじめたのは25年ほど前です。ちょうど愛宕大橋が新しく架け替えられる直前の頃でした。園の前は、小川が流れており、それに架かる、小橋を渡って、園門を出入りしていました。また、愛宕商店街は、大変活気があり、夏の夕暮れには、金曜夜市で賑わっていた思い出があります。

当時から、地域の皆様には、子どもたちに、日々沢山のお声をかけて頂きました。通りすがりに「元気で行きゆうかね？暑いき気をつけなさいよ」或いは、「今日は、あの子がおらんが、風邪でもひいたろうか？」など、本当に心のこもったお声かけです。それが、四半世紀経過し、多数の地域で関係の希薄化が懸念されるようになった今も、ここでは、当時のまま続いています。なんと素晴らしいことでしょう。まさに福祉と教育の両輪をつなぐ軸として、『江ノ口社会福祉協議会』が担って下さるからこそ、成り立つ方だと思います。

子どもは、園（学校）・家庭・地域を結ぶ三角形の中で育ちます。江ノ口にはその安定した土台があると感じます。目の前には、様々な課題がありますが、その一方で、この愛情と繋がりに育てられた子どもが、次々と社会に巣立っていることも確かです。『子育ては、すなわち未来投資である』という言葉があります。『江ノ口社会福祉協議会』こそ今後の地域力として要であると思います。今後も更なるご活躍を、心からご祈念いたしております。





創立 60 周年を祝して

江ノ口保育園
園長 刈谷 みどり

江ノ口社会福祉協議会、創立 60 周年を迎えられ、心からお祝い申し上げます。この 60 年という長きに亘り、数多き地域有志の方々が、戦後の復興期より地域発展を願う熱き想いと行動によって創立され、地域住民福祉の多大な成果を収められ、今日を迎えられたのだと款を通じました。変わりゆく時代の中で、地域のお一人お一人が地元を愛し、人との繋がりを大切にしてこられた、ご尽力・ご功績に支えられての 60 年だったでしょう。現在こうして、沢山の催しや教室がおこなわれ、集っている皆さんの笑顔が輝かれていますのも納得の上で、頭の下がる思いでいっぱいです。

この地区の諸先輩方の志を継続してこられた皆さん・そしてこれからバトンを繋ぐ方々、地元の受け継がれし深い結びつきがこうして形をなし他の地区にはない広がりを見せているのも、継続の努力によるものと心より感謝いたします。

県の社会福祉協議会と時を同じく創立され、益々の発展と地域の皆さんの笑顔の輪が絶え間なく繋がることを期待し、ご祈念いたします。

最後に、私ごとが記念誌に仲間入りさせて頂くことに戸惑いながら、歴史を知り、江ノ口地区の良さを再確認させていただけましたこと有難く光栄に感じます。ありがとうございます。そして、これからもよろしくお願い致します。





「継続は力なり」

学校法人入交学園 あたご幼稚園
川田 珣子

この度は、江ノ口社会福祉協議会の創立 60 周年の節目を迎えられましたこと、お慶び申しあげます。「継続は力なり」と申しますが江ノ口の住民の方、及び江ノ口地区のために献身的にご尽力された役員の方々様、現在の江ノ口地区を考えた時、走馬灯の様に沢山のことが思い出されることでしょうか。どこの地区にも負けない地域の方々の、江ノ口地区を愛する心、団結力の強さは、暴力追放推進会議、交通安全他、数々の協議会組織と共に江ノ口のまた、高知市の誇りでしょう。

平素はあたご（旧）春野幼稚園の子ども達が、当会には大変お世話になっております。現在は、10月に赤い羽根共同募金の缶募金活動に参加しておりますが、子ども達は世界中の人々や、沢山の子ども達が、家庭的、経済的、身体的等に恵まれない人々がいることを知ると同時に自分達は今、どんなに恵まれた幸せな生活を過ごしているかと言うことに気づくとも大切な勉強になっていて、今後も続けていくべき活動だと思っております。年令に合わせ具体的に話し、保護者の皆さんにも協力して頂いているのです。

少子化で、園児減の折、協力金が少なくなっていますが、今回の震災への義援金等、折に触れ、日本人として助け合いの精神が育まれていく教育の必要性を感じております。

当園も江ノ口地区の方々と沢山のお付き合いができたのですが、その中でも当園の夏まつり「夕涼み会」に、婦人会の長生会の方々の出店も何店もあり、園行事に華を添えて頂きました。開店2時間以上前から皆さん手作りの作品や佃煮等沢山の品物が並びました。今はなつかしい思い出の一つです。

また、前の図書館のホールで年長児の子ども達が歌ったり、手遊び等をして触れ合いの時をもち、子ども達の手がポチャポチャと気持ちがいいと、いつまでも手を握って下さいました。思い出しますと、江ノ口地区の皆様には、子ども達や、あたご幼稚園が本当に沢山お世話になっております。役員の皆様はじめ、地域の方々のお力で、社協が益々活躍されますことを願っております。

江ノ口社会福祉協議会の60年間の歩み

(設立の経過)

昭和22年5月施行された新憲法の第25条「すべての国民は健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。②国はすべての生活面について、社会福祉、社会保障及び、公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない。」この憲法を精神を生かして昭和26年1月28日、中央社会福祉協議会が発足しました。続いてそれより15日目の2月12日高知県社会福祉協議会が設立され、会長には江ノ口出身の山本義孝氏が就任されました。こうした事情から当江ノ口にも社会福祉協議会結成の機運がたかまりました。江ノ口社協の設立総会は、昭和26年6月2日洞ヶ島町の「安楽寺」で開催され、次の役員が選出され「江ノ口社会福祉協議会」が誕生しました。

(発足時の役員)

会長 山本義孝、副会長 濱川金兵衛、島村善次郎、常務理事 吉良義寛、他に理事16名、監事2名、評議員45名

(事業計画及び予算の概要)

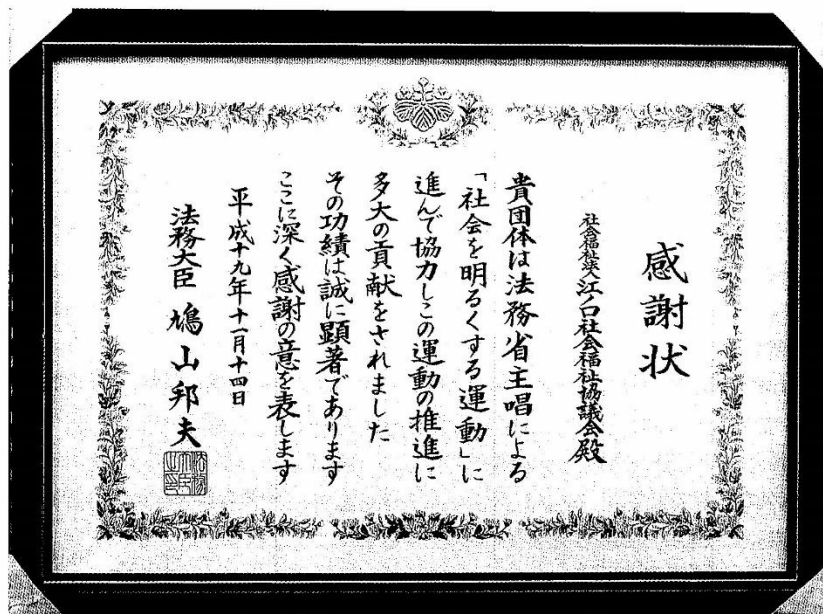
1. 地区内の社会福祉施設の連絡協調を図ること。
2. 福祉金庫の利用を指導すること。
3. 各種の社会事業大会へ参加すること。
4. 地区民の福祉増進のための講演会を開催すること。
5. 戦没英霊の慰霊祭を行うこと。
6. 敬老会を開催すること。
7. 児童福祉の増進を図ること。
8. 児童遊園地の開設並びに既設遊園地の充実維持を援助すること。
9. 保育園増設に関する運動をすること。
10. 生活困窮家庭の援護をすること
11. 公設質屋新設の運動をすること。
12. 救ライ運動への協力をすること。
13. 共同募金に協力すること。
14. 赤十字募金に協力すること。

(予算の概略)

歳 入	
会 費	12,000円
助 成 金	15,000円
(市協議会及共同募金)	
寄 付 金	68,000円
(有志寄付金)	
事業収入金	10,000円
合 計	105,000円
歳 出	
事 務 費	42,000円
印 刷 費	10,000円
慰 霊 祭 費	10,000円
敬 老 会 費	5,000円
児 童 遊 園 地 費	10,000円
生 活 困 窮 者 費	20,000円
(慰問費)	
講 演 会 費	3,000円
予 備 費	5,000円
合 計	105,000円

◎予算規模が少額なのは当然としても、歳入面で寄付金・会費に頼る部分が多くきびさが伺えます。また戦没者の慰霊祭や、生活困窮者の慰問費など当時の人々の思いも伺えます。事務費が突出しているのは、兼務で事務員を置いたようです。

◎平成19年度高知県更生保護事業関係功労者顕彰式において江ノ口社会福祉協議会に法務大臣の感謝状が授与されました。平成19年11月21日一同で喜びを分かちあい祝賀会を催しました。



社会福祉協議会歴代会長、副会長と主な出来事

年号

昭和 26. 6. 2	山本義孝、濱川金兵衛、島村善治郎
昭和 29. 9. 15	濱川金兵衛、島村善治郎、宮本 廸
昭和 30. 9	濱川金兵衛、島村善治郎、長谷川治助、田所良栄
昭和 34. 9	濱川金兵衛、島村善治郎、田所良栄、吉良義寛
昭和 37. 4. 27	創立 10 周年記念大会
昭和 38.9	濱川金兵衛、吉良義寛、笠井福次、中谷敬子
昭和 40.10.24	創立 15 周年記念大会
昭和 41.10	濱川金兵衛、吉良義寛、笠井福次、高橋正統
昭和 42. 8	濱川金兵衛、吉良義寛、原 統、竹内亀鶴
昭和 44. 7	濱川金兵衛、吉良義寛、原 統、竹内亀鶴、平地秀正、岡林 馨
昭和 45.10.14	20 周年記念行事中止 台風 10 号災害 (8.21)
昭和 48.10	濱川金兵衛、吉良義寛、原 統、竹内亀鶴、平地秀正、岡林 馨、 堅田於儀江
昭和 50. 7	濱川金兵衛、原 統、竹内亀鶴、平地秀正、岡林 馨、笠井福次、 堅田於儀江
昭和 50	25 周年記念行事中止 台風 5 号 記録的な集中豪雨。
昭和 56.10	原 統、竹内亀鶴、平地秀正、笠井福次、堅田於儀江、長谷川英照
昭和 57. 4	原 統、竹内亀鶴、平地秀正、笠井福次、堅田於儀江、長谷川英照
昭和 58	平地秀正、西森喜義、大石豊喜、田能満寿夫、荒川加寿子
昭和 60. 3	江ノ口社協「江ノ口地区」「江陽地区」分離
昭和 60. 7	笠井福次、和田寿美男、矢野利平、中川 泉、葛岡一恵
昭和 62.10	笠井福次、和田寿美男、矢野利平、中川 泉、葛岡一恵
平成 1. 5	和田寿美男、矢野利平、中川 泉、伊藤美代子
平成 2. 11. 3	創立 40 周年記念大会
平成 3. 5	和田寿美男、矢野利平、中川 泉、伊藤美代子
平成 5. 5	和田寿美男、矢野利平、中川 泉、伊藤美代子
平成 7. 5	和田寿美男、矢野利平、中川 泉、伊藤美代子
平成 9. 5	和田寿美男、矢野利平、中川 泉、伊藤美代子、福留一男
平成 11. 5	和田寿美男、矢野利平、中川 泉、伊藤美代子、福留一男
平成 13. 5	和田寿美男、矢野利平、中川 泉、伊藤美代子、福留一男
平成 13.12. 1	創立 50 周年記念大会
平成 15. 5	上地 清、矢野利平、伊藤美代子、福留一男、阿部兼士
平成 17. 5	上地 清、矢野利平、福留一男、阿部兼士、井上智子
平成 19. 5	上地 清、矢野利平、福留一男、阿部兼士、井上智子
平成 19.11	法務大臣表彰
平成 21. 5	上地 清、福留一男、井上智子、井上郁子、高橋尚良
平成 23. 5	高橋尚良、福留一男、井上智子、井上郁子、岡村康良
平成 23.12. 4	創立 60 周年記念大会

平成 23・24 年度 江ノ口社会福祉協議会役員名簿

(順不同)

【 総務部 】

役員名	氏 名
顧問	小松 三良
〃	和田寿美男
〃	上地 清
相談役	西岡百合子
協力会員	谷 智子
愛宕中学校校長	
〃	副田 謙二
一ツ橋小学校校長	
〃	片岡 正樹
江ノ口小学校校長	
〃	野村 貞夫
あたご幼稚園園長	
〃	刈谷 緑
江ノ口保育園園長	

役員名	氏 名
理事・会長	高橋 尚良
〃・副会長	福留 一男
〃・〃	井上 智子
〃・〃	井上 郁子
〃・〃	岡村 康良
監 事	森 千代範
〃	松田 誠祐
会計理事	濱川 良子

役員名	氏 名
理事・部長	小倉 卓
〃・副部長	金山 禮仁
理 事	宮田 隆弘
〃	矢野 利平
〃	前田淳二郎
代 議 員	荻田 雅夫
〃	吉良 祝人
〃	吉良 富彦
〃	筒井 節子
〃	青山 清
〃	田内 章
〃	都築 克行
〃	岡部 忠孝
〃	中山由起子
〃	川村 益資
〃	別役 寿夫

【 交通防犯部 】

役員名	氏 名
理事・部長	中越 利夫
〃・副部長	近森 来子
〃・〃	嶋本あけみ
理 事	倉橋 幸近
〃	篠原 功二
〃	濱渦 裕子
〃	武井 昭男
〃	下田 勇
代 議 員	高橋清一郎
〃	岡部千恵子

【 青少年部 】

役員名	氏 名
理事・部長	村岡眞佐子
〃・副部長	谷村 佳世
〃・〃	筒井 明子
理 事	賀田 義幸
〃	門田 浩人
〃	齊木 美穂
〃	澁谷 三鶴
〃	清水 有
〃	谷岡 直
〃	千島 倫子
〃	中田 廣海
〃	大森 悦子
代 議 員	尾崎 丈夫
〃	清遠 敬三
〃	太田 礼子

【 社会厚生部 】

役員名	氏 名
理事・部長	高階 進
〃・副部長	小松 信利
〃・〃	高橋 泉
理 事	上地 良恵
〃	永森 教子
〃	田村 修
代 議 員	大坪 義勢
〃	中地 英彰
〃	小笠原資子

【 敬老部 】

役員名	氏 名
理事・部長	邑田 康恵
〃・副部長	高橋 好子
理 事	西岡百合子
〃	弘光 容子
〃	土居 静子
〃	嶋村 恭雄
〃	西野 江美
〃	中越 董
〃	本山 美子
〃	市村 峰子
〃	工藤千代子
〃	前田 晋
〃	蓼原 久美
代 議 員	高野 和子
〃	下元啓伊子

【 女性部 】

役員名	氏 名
理事・部長	齋藤 氏
〃・副部長	岡林 秀子
〃・〃	山崎 清子
〃・〃	岩城久寿美
〃・〃	岡本 信子
〃・〃	森山 映
代 議 員	佐川美智子
〃	刈谷 幸子

平成 23 年 4 月 1 日現在

平成 23 年度 事業計画

総務部

1. 会議の開催
 - ① 通常総会 5月21日 ② 理事会 5月10日・1月 ③ 監査 4月22日
 - ④ 委員会 4月12日・6月・9月・12月・3月
2. 江ノ口社会福祉協議会会報を発行する。
3. 県・市広報等を配布する。
4. 民生児童委員協議会、老人クラブ江ノ口長生会等へ助成金を交付する。
5. 共同募金江ノ口分会に協力し、共同募金のPR活動を行う。

交通防犯部

1. 江ノ口地域安全協議会との合同活動（助成金）。
2. 愛宕地区少年補導員江ノ口支部との合同活動（助成金）。
3. 江ノ口社協の敬老部その他の活動に協力をする。
4. 交通安全祈願祭に参加する。
5. 江ノ口地区のカーブミラーの清掃をする。
6. 防災の研修視察の実施。
7. 救急救命の勉強会の実施。
8. 交通安全の桃太郎旗の設置（年3回）。
9. その他交通安全防犯に必要と思われる行事に参加。

敬老部

1. 敬老会の開催
75歳以上（対象者1420余名）の高齢者を招待して敬老会を開催する。
2. 福祉町づくりふれあいの会
75歳以上の独居老人と80歳以上の高齢者を招待して福祉町づくりふれあいの会を開催する。

社会厚生部

1. 社明運動（社会を明るくする運動7/1～7/31）県市合同の決起大会に参加する。
2. 江ノ口地区社明運動へ参加する。
3. 更生保護施設高坂寮に助成金を交付する。
4. 地域の小学校行事に協力し参加する。
5. 交通防犯部と合同でのパトロールをする。
6. 法外援護・緊急援護の実施。
7. 江ノ口コミュニティセンター主催の「育児サロン」に共催事業として取り組む。

女性部

1. 老人福祉活動として、江ノ口老人クラブミニディを実施する。
2. 女性保護対策推進会に助成金を交付する。
3. 県女性保護対策推進会の事業に参加し協力する。

青少年部

1. 青少年育成事業
本年度も江ノ口小学校、一ツ橋小学校、高知大附属小学校、小高坂小学校（一部）の児童を対象としたイベントを計画し、ふれあいを通して児童の健全な育成に寄与する。
2. 江ノ口まつり・一ツ橋まつりに協力する。
3. 地区内の青少年育成協議会の事業に協力参加する。

平成22年度・23年度 歳入歳出予算書

【歳入の部】

	項 目	22年度予算額	23年度予算額	増 減	摘 要
1	協力費	230,000	230,000	0	西江ノ口各町区
2	交付金	1,270,000	1,170,000	△100,000	民協35歳末28共募43ふれあい10事務1
3	寄付金	10,000	10,000	0	江ノ口日赤等
4	委託料	1,600,000	1,900,000	300,000	県/市広報等
5	負担金	0	100,000	100,000	負担金
6	雑収入	100,000	1,000	△99,000	預金利息等
7	前年度繰越金	777,945	880,075	102,130	前年度繰越金
	合 計	3,987,945	4,291,075	303,130	

【歳出の部】

	項 目	22年度予算額	23年度予算額	増 減	摘 要
[1]	事 務 費	370,000	370,000	0	
総務	1. 会議費	230,000	230,000	0	役員会・総会・理事会等
"	2. 会長活動費	30,000	30,000	0	
"	3. 会計手当	50,000	50,000	0	
"	4. 消耗品費	10,000	10,000	0	
"	5. 通信費	10,000	10,000	0	郵便料
"	6. 印刷費	30,000	30,000	0	総会・役員会資料等
"	7. 雑費	10,000	10,000	0	印紙代
[2]	事 業 費	3,268,000	3,600,000	332,000	
総務	1. 会報費	62,000	62,000	0	会報発行
"	2. 民生委員助成金	186,000	186,000	0	江ノ口西民協助成金31人
"	3. 青少協暴追助成金	100,000	102,000	2,000	一ツ橋・江ノ口・小高坂小 各地区青少協へ助成
"	4. 老人福祉助成金	60,000	60,000	0	長生会へ助成
"	5. 広報紙配布料	1,450,000	1,750,000	300,000	
"	6. 雑費	30,000	30,000	0	
交防	7. 交通防犯対策費	120,000	120,000	0	街頭指導・協力団体助成等
"	8. 雑費	30,000	30,000	0	
敬老	9. 敬老費	700,000	700,000	0	敬老会・福祉町づくりふれあいの会
"	10. 雑費	50,000	50,000	0	
社厚	11. 社明協力費	70,000	70,000	0	社明運動協力費
"	12. 法外援護費	20,000	20,000	0	
"	13. 更生保護費	10,000	10,000	0	高坂寮へ助成
"	14. 緊急援護費	20,000	50,000	30,000	火災見舞金・生活困窮援助費等
"	15. 雑費	30,000	30,000	0	
女性	16. 福祉活動費	55,000	55,000	0	高齢者福祉活動
"	17. 女性対策協力費	15,000	15,000	0	協力団体助成等
"	18. 雑費	30,000	30,000	0	
青少年	19. 児童施設協力費	10,000	10,000	0	
"	20. 青少年対策費	190,000	190,000	0	小学生ピクニック・江ノ口まつり等
"	21. 雑費	30,000	30,000	0	
[3]	予 備 費	349,945	321,075	△28,870	
	合 計	3,987,945	4,291,075	303,130	

創立 60 周年記念事業 実行委員



(後列)	齋藤 民	村岡眞佐子	井上 郁子	井上 智子	邑田 康恵	福留 一男	澁谷 三鶴	高橋 尚良	中越 利夫	岡村 康良	高階 進	岡林 秀子	森 千代範	小倉 卓	松田 誠祐	濱川 良子	賀田 義幸	
(前列)																		

編集後記

江ノ口社協創立 60 周年の節目にあたり多くの方々のご協力を得て記念事業を実施することができました。ここに記念誌をお届けします。

社協役員としても創立以来の先人の奉仕の精神に学び、時代の変化を受け止めながら、それぞれの立場で日々努力しております。

限られた紙面で意は尽せませんが、故郷の昔の姿に思いを馳せたもの、津波に歴史的な視点を与えたもの、古い中心市街地のにぎわい、福祉・人権・子ども支援・敬老・生きがいがづくり等々連綿と続く時代のうねりの中で、ほんのひとすくいの記述ではありますが、お互いに学びとることは多く、今後の課題もみえてくるように思います。そんな中で今回の東日本大震災は皆の心底深く大きな傷として刻み込まれました。このことは今後の社協役員の課題にもかかわってくると思います。歩みはとどまりません。今後とも行政各方面のご指導いただきながら地域住民の皆様と明日へ進んでまいりたいと思います。

最後に今回の記念事業に対し各方面から多くの賛助金をいただきましたことを厚くお礼申し上げます。

編集委員長 井上 智子



ナadeshiko

創立 60 周年記念事業寄付者芳名 (アイウエオ順)

仙江ノ口保育園	工藤千代子
(有)ウエスト・ワン	久米美枝子
(有)染織・美整中村	倉橋幸近
アート高知 柏原伸司	黒岩仕出し店 黒岩信正
愛宕商店街振興組合	ケイフローリスト 野町和也
あたご寝具 高橋尚良	高知銀行 北支店
愛宕中学校PTA	高知信用金庫 江ノ口支店
池本喜美子	齊木美穂
石元米穀店 石元善徳	齋藤 民
市村峰子	齋藤君子
伊藤美代子	坂本正夫
井上郁子	佐川美智子
井上誠司	四国銀行 よさこい咲都支店
井上智子	四国パイプ工業(株)
井上昌紀	篠原功二
伊与田公子	澁谷三鶴
岩城久寿美	澁谷康夫
いわはら美容室	嶋村恭雄
宇賀喜彦	嶋本あけみ
内川道子	清水 有
宇都宮宜子	下田 勇
江ノ口小学校PTA	下元啓伊子
江ノ口体育会	瀬戸内科
大坪義勢	創価学会
大野 上	副田謙二
大森悦子	田井秀秋
小笠原竜太郎	高木ピアノ調律所
おかず工房吉川 吉川昌治	高階 進
岡林秀子	高野和子
岡林秀徳	高橋清一郎
岡林理恵子	高橋輝子
岡村康良	高橋好子
岡部忠孝	武井昭男
岡本信子	竹内江美
小倉 卓	多田輝子
尾崎丈夫	蓼原久美
小野佐知	谷岡 直
景山米穀店 景山和彦	谷岡英治
賀田美喜恵	谷村佳世
賀田義幸	田内功一
学校法人入交学園 あたご幼稚園	田部義一
門田浩人	チエ美容室
金山禮仁	近森來子
カフェハウス「フィドルファドル」	千島倫子
上地 清	筒井衣料品店 筒井 潤
上地順子	筒井朋子
刈谷幸子	都築克行
北村和子	デイサービス「やえもん」
清遠敬三	デイサービス まる

土居寿之助
土居静子
陶器のさわ本 澤本正二郎
徳平拓一郎
徳弘 泉
徳弘 繁
豊永正美
長尾米穀店
中越 重
中越利夫
中田廣海
中村隆文
永森教子
永森啓司
西岡百合子
西野江美
野島和子
畑山智子
濱渦裕子
濱川次郎
濱川忠昭
濱口敏彦
東山桂子
広松百貨店 広松里香
弘光容子
福留章夫
福留一男
ベーカーリーサンモア
別役寿夫
別府須磨
堀江仁彦
前田 晋
前田淳二郎
増本恒文

又川和夫
松田誠祐
丸栄ストアー あたご店
三木義則
南四国個人タクシー
三本軒次郎
宮田隆弘
村岡美仁
村岡眞佐子
邑田康恵
本久博一
本山印刷(株)
本山美子
森千代範
森 友子
森 幹雄
森下真一郎
森田典男
森田良一
森光英昭
森本典代
森山 映
矢野利平
山崎一則
山崎紀代子
山崎清子
矢間慎一
ヤマテパン 山手 聡
山本久子
山脇 寧
有料老人ホーム「とも」
横田整二
横山製麩所
吉田町・愛宕町3丁目町内会

江ノ口社会福祉協議会創立60周年記念事業を行うにあたり、数多くの皆様方にご寄付のご協力を賜り、無事に「記念式典」並びに「記念誌の発行」ができました。心より感謝申し上げます。今後とも江ノ口社会福祉協議会の活動にご理解とご協力をお願いいたします。

江ノ口社会福祉協議会創立60周年記念
記念誌編集委員会

資料提供 実行委員会
発行 平成23年12月吉日
印刷製本 本山印刷株式会社

島崎和歌子



私たち四国銀行は
地域社会に貢献してまいります。

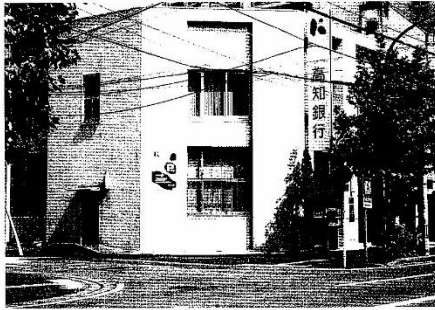


四国銀行

あしたを元気に!ビビッドバンク

よさこい咲都支店

〒780-0062 高知市新本町1-2-3 TEL 088-822-5566



あしたを元気に!ビビッドバンク

高知銀行

北支店

高知市北本町1丁目13番7号
TEL.088(822)5257

.com
BANK



江ノ口支店

〒780-0051
高知市愛宕町3丁目5番10号
TEL 088-823-4427